

## CONTENTS

● 第24回NAMMビジネスツアー報告	1～4
● 普及委員会 MIDI検定試験実施結果報告	4
● 早稲田大学連携講座での講義実施	5～7
● AMEI会員名簿・令和6年度MIDI検定告知・SysEXID会員募集	8

# 第24回NAMMビジネスツアー 報告



今年のNAMM SHOWは、2024年1月25日～1月28日の期間で、アナハイム・コンベンションセンターにて開催されました。

NAMMの発表では、今回の入場登録者数は、62,000人、総出展者数1600社を超えました。

2020年以來4年振りの実施となりました、MIDI規格委員会主催の第24回NAMMビジネスツアーは、米国の物価高と為替レートの円安という厳しい環境下での実施となりましたが、7名の参加を得て、1月24日成田出発～1月30日と31日帰国のスケジュールにて、無事実施することができました。

# NAMM 2024 ツアー報告

MIDI 規格委員会 委員長 三浦 大輔



2020年のNAMMショー以来、4年ぶりに2024年1月24日から1月30日にかけてNAMMツアー（会場：米国アナハイムコンベンションセンター）が行われました。円安の影響もあり、コロナ禍前とは若干異なるツアー内容となりましたが、同行されたAMEI事務局の下山さんの適切なご対応によりトラブルなくNAMMツアーを終え、全員無事に帰国することができました。MIDI規格委員会の一部メンバーも本ツアーを利用し、The MIDI Association (TMA)のブース見学、MIDI 2.0規格関連担当者同士の打ち合わせを滞りなく実施しました。おかげさまで、今後のMIDI 2.0規格策定、市場への展開に向けて、より強い結びつきを構築することができました。



初日の夜はツアーの成功を祈るため、そしてNAMM見学の英気を養うためにホテル近辺のステーキハウス (Tony Roma's) にてツアー参加メンバーで食事会を行いました。食事をしながら、MIDI 2.0規格策定による将来の電子楽器の世界について語りました。普段は社内のメンバーと話す機会しかない方が多いと思いますが、同じ楽器業界各社の方々と異国の地で食事をしながら意見交換できるのは、このツアーの大きなメリットです。もっと多くの方々に参加頂ければと思います。

さて、翌日1月25日からNAMMショーがスタート。展示社数が減り、展示規模がコロナ禍前よりもコンパクトになったものの、参加者の様子は初日の朝から非常に活気があり、新しい楽器への期待に満ち溢れていました。会場の出入りゲートは建物の外に設置、建物の出入り口はノーチェックでスムーズに移動することができました。建物の外にはキッチンカーも多数出ていましたが、人がとても多く、食事のための長蛇の列は相変わらずでした。食事のクオリティは高いものの、円安や物価高の影響もあり、日本人にとっては非常に高価なランチとなりました。

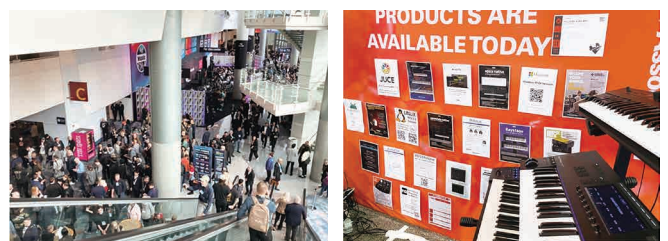
各メーカーの新商品を直に触って体験することや、説明員と直

に会話して様々な情報を得ることができるのがNAMMの醍醐味ではありますが、我々MIDI規格委員会メンバーとしてはTMAのブースの見学もNAMMツアー参加の目的の一つとなっています。今回のブースはこれまでと同様にメンバー企業による様々な展示の他、MIDI 2.0に関する各種イベントを行うためのプレゼン会場も設けられていました。会場には我々のようなMIDI規格団体メンバーだけではなく全てのNAMM来場者も入ることができ、MIDI 2.0の各種規格の紹介・説明、MIDI 2.0機能を実際に動作させたデモンストレーション、演奏セッションを見ることができ、どのセッションも参加者が多く、MIDI 2.0への期待感を肌で感じることができました。また、プレゼン会場横には、現時点でリリースされているMIDI 2.0対応機器を実機とパネルで展示し、これまでとは異なり現実に存在するMIDI 2.0機器を一般の来場者にアピールできたことは長年本規格制定に関わっている者としては非常に感慨深かったです。総じて、TMAのブースは非常にプレゼンスが高くMIDI 2.0をアピールすることができており、来年以降のNAMMではAMEIとしてもTMAとの連携し、プレゼン、デモを行うことでMIDI 2.0の有用性をアピールしていきたいです。



例年、NAMM期間内の土日で行われていましたThe MIDI Association (TMA)との国際会議、年次総会は事前に12月初旬にオンラインで実施されたため、NAMMショー期間中の規格団体同士の全体打ち合わせは実施されませんでした。一方で、MIDI 2.0規格の個別規格の議論や各種試作案件の打ち合わせを担当者同士で行い、今後の双方の活動に対し実のある議論を行うことができました。この夜、AMEIメンバーとTMAメンバーとで食事会を行い、さらに親睦を深めることができました。

NAMM見学を通し改めて感じたことは、TMAは着実にMIDI 2.0をプロモーションし、さらにスピード感を持ってMIDI 2.0規格策定、公開を進めることで、MIDI 2.0規格の市場への展開を加速させているということでした。AMEIとしてもTMAと歩調を合わせ、MIDI 2.0の市場への展開を目標に、MIDI規格委員会、MIDI 2.0部会の活動を推進していきます。引き続き、TMAメンバーとは情報共有だけではなく対面での議論を行うなど、MIDI規格団体として双方でMIDI 2.0を推進してまいります。これからも、AMEIの活動のご支援を宜しくお願い致します。



# NAMMビジネスツアー

## NAMMツアーに参加して

AMEIツアーを企画いただき、今年も弊社からは2名参加させていただきました。個人的に10年ぶりの海外渡航、初の訪米ということで不安もありましたが、フライトと宿の手配をおまかせできたことや現地までの往復路を団体行動できたことでトラブルなく旅程を終えることができました。ありがとうございました。

コロナ禍を経てのNAMMショーの様子が気になるものでしたが、どのブースも大勢のお客さんで活気溢れる光景を見て安心しました。幅広い層のお客さんが思い思いに楽器に触れて楽しんでいる様子にこちらも嬉しくなりました。

様々なメーカーの新製品にいち早く触れられるというのがやはりNAMMショーの醍醐味ではありますが、予想外の発見も多々あり、中でもDJメーカーエリアの存在感はカルチャーショックとでもいうべきものでした。音圧もさることながら照明やスモークなどの視覚効果もふんだんに使った演出、観客も一体となつての盛り上がりは会場随一ではなかったかと思えます。

またMAのブースでMIDI 2.0に関するいくつかのデモとセミナーに参加しましたが、予想以上に多くの方が聴講されているのにも驚かされ、関心の高さが窺えました。対応したOS、ハード、ソフトも各社からリリースされ始め、いよいよ本格的に普及していくであろうと予想されます。

現地では基本的に自由行動ということで、うち1日を利用して教会礼拝に参加しました。アメリカのリアルな文化にも触れてみたいという目的だったのですが、結果としては今回の日程の中で一番感慨深く印象に残るものとなりました。

日曜朝の礼拝開始時間が近づくにつれ、地元の方が教会に集まってきたのですが、沢山の方々が初対面の我々にとっても温かく気さくに声をかけてくださったことにまず驚き、感激しきりでした。

ローランド株式会社 内山 大輔

礼拝の前半ではスローバラード調の現代的な讃美歌が演奏され、それに合わせてみなさんも口ずさんでいて、大きな声で感情豊かに歌う人、立ち上がって手を掲げながら歌う人などもいました。信仰が生活に自然と溶け込んでいるような光景は胸に響くものがありました。続いて牧師さんの講話があり、その後はみなさんで食堂に移動して昼食をとりながら歓談されていました。単なる儀式ではなく、地域の人たちの交流の場にもなっていることが窺えました。ここでも多くの方に声をかけていただき温かな気持ちになりました。

アメリカ人というのは英語が話せない相手にはドライな対応をするものだという思い込みがあったのですが、全くそんな人には出会うことはなく、メディア越しに見る世界というのはほんの一側面に過ぎないということを痛感しました。そのほかにもただの観光だけでは決して得られない、現地のリアルな姿を知ることができる貴重なツアーとなりました。



## NAMM2024ツアーに参加して

私は、電子楽器の電気回路設計を担当しております。楽器開発業務に従事する者として、いつかはNAMMショーに参加してみたいと言う思いが入社当時からあり、今回初めて参加出来る事になって、大変楽しみにしておりました。元々飛行機が苦手な私、フライトにより体調を崩さないか懸念しておりましたが、シンガポール航空の便にて無事移動出来ました。空港からホテルまでのシャトルバスによる移動は、バスが十分広く快適でした。ホテルも、会場から徒歩20分程度でアクセスが良く、毎日会場内を歩き回っていたため助かりました。当ツアーにて手配頂いた移動やホテルのおかげで、ツアー中無事に過ごす事が出来ました。同行下さったAMEI事務局の下山様には、ホテルから会場周辺のレストランを書き入れた地図までご用意頂き、大変助かりました。誠にありがとうございました。

NAMMショーでは、事前に想像していた以上の活気と熱気を感じました。現地USAのメーカーや現地法人だけでなく、世界各国から出展社が集う、重要且つ貴重なショーです。各ブースを訪ねてモデル現物に触れ、説明員の方と直接会話する事で、メーカーの方針やモデルの仕様について、理解を深める事が出来ました。特に、日本では入手困難なメーカーやモデルについて情報を得る事が出来たのは、とても有意義だったと感じています。

電子楽器では、LCDや有機ELの採用による、表示の高品質化が気になりました。一昔前までは、カラーTFTのLCDは高価格帯のモデルのみ載っている印象でしたが、普及価格帯モデルにも多く採用されている点に驚きました。有機ELは、LCDに比べ実装の自由度が高く、ミニサイズ鍵盤モデル等、小型で表示素子を置く場所に制約が大きいモデルに多く使われているのを見ました。また、モデルは小さくなくてもパネルにボタンやノブ等の操作子が多く並び、同じく制約が大きいモデルにも多く使われていました。表示の

ヤマハ株式会社 電子楽器開発部 電気グループ 戸塚 一彰

品質は、見栄えだけではなく楽器の使い易さにも大きく影響します。

物理操作子の数はどうしても限られるため、細かい設定は階層を設けた先に置かなければいけません。操作の都度、マニュアルが必要になるのはユーザーにとってストレスです。また、日中の屋外イベントで使われるモデルでは、太陽光がステージに当たる環境でも、視認性を確保しなければいけません。

スマートフォンの普及で、電子機器の画面に要求される画質の水準は一般的に大きく上がってきていると思われ、電子楽器も高水準化の流れに追従して行く必要があると考えました。このような業界全体の傾向を知るためには、購入した数モデルを職場で眺めるだけでは難しく、NAMMのような規模の大きい業界のショーに参加する方が、効率良く雰囲気や肌身に感じる事も出来ます。是非、AMEIのビジネスツアーで、NAMMショーを体感しましょう。



# NAMMビジネスツアー

## Syncopation for NAMM

“坂くん、NAMM Show に行ってみないか？”そう上司に誘われ、即答で“YES”と答えたことがこの旅の始まりだったのだろう。旅程としては1週間の渡米で、NAMM Showには4日間参加可能、とのこと。仕事のスケジュールに余裕があるわけでもないが、武士は食わねど高楊枝よろしく、余裕があるふりをしてどうにか仕事の調整をしながらNAMM経験者に取材をし、準備を進めていった。実際には、初渡米・初NAMMということで、期待と不安が綱い交ぜになった気持ちで渡航の日を迎えた。

まずNAMM Showにおいて重要なのは、自分の位置を把握することである。アプリで地図情報を確認できるものの、自分がどの方向を向いて、どれくらい歩いたら目的のブースに辿り着けるのか、という感触を掴むことが効率良く会場を回るコツである。2Dの地図と目の前の3Dのギャップを埋めるには、やはり歩き回る他ないと結論付けた。

世界最大級の音楽・楽器ショーに参加するメリットは幾つか考えられるが、強いて挙げるのであれば複数の製品・ブランドをすぐ比較できる、ということである。Web上での情報収集やリアル店舗での調査以上に、同時に様々な情報が手に入るため、それぞれを相対化して捉えやすい、というメリットがある。また、ブースの作り方から各ブランドの伝えたいことを感じたり、直接展示者と話をすることで、どういう考えで製品を作っているのかという情報を得ることができることもメリットだろう。普段は見過ごしてしまうような製品なども、折角その場にいるのだから、という気持ち

ローランド株式会社 機構開発部 坂 拓磨

になって取材したり、話しかけたりした。このように情報収集のモチベーションが自ずと上がることも期待できる。

とある製品群を隈なくチェックすることをミッションとして背負っていたため、結局会場を隅から隅まで歩いた。その中で、フード提供のお店・コンビニなお店・お土産ブースを発見した。お土産ブースはオススメだ。こんな機会は二度と無い可能性もあるし、日本で私の代わりに業務をしてくれている同僚にお土産を購入できる。

全体として、これだけ大きいShow が成立するほど楽器市場が成熟していることも興味深い。どんだけ人間は楽器を作りたいんだ、と思った。その原動力はどこから来るのか。音楽を奏でること、音楽を感じることに魅力を感じ、音楽を求める欲求がその原動力の1つなのかもしれない。

他の旅程としては、関係会社への訪問、ギターセンターの伝説達の手形、ハリウッドでの恐怖体験、夜のジャズライブ、教会でのワーシップ、LA散策など幾つかの体験も含め、かなり充実した旅となったことは間違いない。もしあなたにNAMM訪問の声がかかった際は、食い気味で“YES”と言うためにシンコペーションの練習をしておくことをおすすめする。



## MIDI 検定試験実施結果報告

MIDI 検定指導研究委員会 上杉 尚史

2024年2月に実施されたMIDI検定2級2次試験の採点が4月に終了し、令和5年度のMIDI検定が一区切りとなりました。

今年度は2023年2月に3級、2級、1級のガイドブックを刷新したことにより、12月に実施した筆記試験では旧ガイドブックとの整合性を図るために限定的な出題形式を採用しました。新しいガイドブックでは、この10年で変化してきた内容（例えばUSB-C端子やUSB 3.1などの知識）が記載されているのですが、旧ガイドブックではUSB 3.0までの内容しか記載されていないため、これらが出題できませんでした。今年度は移行期間として新旧どちらのガイドブックを使用しても受験が可能なお状態としましたが、次年度からは新ガイドブックの内容に100%シフトした形で試験問題を構成する予定です。少しでも新しい技術に長けた人材が育つことを期待しております。

話は変わりますが、今年度初めて国内のメーカーからMIDI 2.0対応のMIDI機器がリリースされました。今後各社続々と新製品を投入してくると思われられますが、こういったMIDI 2.0へのアップデートに関してもMIDI検定では対応していかなければなりません。ただ、未だにDAW各社のMIDI 2.0データの扱いが定まっておらず、表記方法、入力方法、実際の効果などを試験に落とし込むには未だ時間がかかりそうです。事実、先日実施された2級2次試験の課題提出において、DAWの仕様が変わった事による意図しないデータ入力が施されているケースが見られるなど、受験者のデータにも影響が出ています。



新しいガイドブックでは、既にMIDI 2.0の概要について触れていますが、詳細なデータの扱い方に関しては記載していません。これらはMIDI 2.0用のガイドブックを制作し、一般の方でも便利にMIDI 2.0を使いこなせる知識を広めたいと考えており、検定委員会の次の課題として検討しております。プロトコルとしてのMIDI 2.0は完成の時期にきておりますが、音楽家が扱えるMIDI 2.0に如何に落とし込めるかが普及の鍵になるのではと考えております。そういった意味でも、MIDI検定役割は重要だと考えておりますので、今後も受験者の増加のための施策や、内容の拡充に努めたいと思います。



## 早稲田大学連携講座最終年度

著作権・ソフト委員会  
副委員長 堀江 康明

### 1. はじめに

著作権・ソフト委員会との連携講座として毎年実施してきました早稲田大学理工学術院「国際コンテンツビジネスと著作権」講座ですが、2022年まではオンラインのみの授業となっておりましたが、2023年は久しぶりの対面授業を行うことになりました。また大学全体のカリキュラムの変更があり、2023年度は従来の90分×15回の実施から、100分×14回の実施に変更となりました。1回分のテーマ設定が少なくなりましたが、代わりに1回あたりの時間が長くなりましたので、従来以上に知財・著作権の基礎知識やコンテンツビジネスの市場動向を丁寧に解説し、音楽サービスの適法利用を促し、エンターテインメントコンテンツとその周辺ビジネスを紹介し、AMEIについて理解を広げる活動をしました。60名の学生が受講し、連携メリットとして2つの取り組みを実施しました。

### 2. 講義アンケートについて

2022年度までは、予め録画した動画をインターネット経由で視聴するオンデマンド講義だったために、学生の授業への積極参加を促す試みとして、Webアンケートを行っていました。AMEIや会員企業の活動に興味を持つアンケートもあり、その結果をAMEI NEWSで報告したところ、会員の皆様からご好評を頂きましたので、対面授業となった2023年度も同様のアンケートを実施しました。

#### 課題

一般社団法人音楽電子事業協会（AMEI）のHPを見て、  
会員にどんな企業がいるかを調べなさい。  
その会員企業の会社概要や事業内容を参照して、  
AMEI自体もしくは興味をもった1社について、興味を持った点を答えなさい。

学生の中から、AMEI会員各社のどんなことに興味をもったかがよく分かる内容となっていました。学生の同意を得たうえで、コメントを整理してご紹介させていただきます。

会社名・団体名 ※アルファベット・50音順
コメント内容
<b>○AMEI</b> <ul style="list-style-type: none"><li>特に興味を持った点はMIDIの将来の可能性についてである。単なるデータ利用ではなく、将来的には楽器に限定されない使用方法を目指している。MIDIという基盤を使うことで、新たな音声の可能性や新しいエンターテインメントを作ろうとしている点に興味を持った。</li><li>純粋な音楽制作のための技術志向というよりは音楽コンテンツの流通のための環境整備に力を入れている。</li><li>MIDI 2.0は従来よりも豊かなライブパフォーマンスを実現できるとあり、実際にライブなどでこの技術を用いた演出を体感したい。</li><li>著作権・ソフト委員会の活動にAIの動向と楽器への影響に関する研究があり、どのような影響が考えられるのが気になった。</li><li>連携講座が早稲田大学でしか実施されていないことを知り、面白くてためになる講義なので他大学でも実施すればいいのと思った。</li><li>MIDI検定は、毎年300人以上の受験者がいる。これからの時代に音楽において必須になるので、非常に良いと思いました。</li><li>製品安全規格部会および環境問題研究部会で、国内外の電気用品の製品規格や環境に関する法規制の動向を調査し、環境にも配慮していることに興味を持った。</li><li>MIDI規格委員会は、音楽電子機器のMIDI規格の制定や改訂に携わり、相互運用性や技術革新の推進に寄与している。</li><li>以前の「東京楽器博」というイベントは参加してみたかった。</li></ul>
<b>○アナログ・デバイス株式会社</b> <ul style="list-style-type: none"><li>高帯域・双方向オーディオ・バス「A/B™」は、複数のマイクやスピーカーを1本の2ワイヤ式UTPケーブルでデジチェーン接続し、オーディオ品質を保ったままケーブル量を減らすといった効率化に貢献する。また車載だけでなく、スタジオやコンサートにおける効率的なオーディオ・データ送受信の手段としても注目されている。</li><li>オーディオ製品の他に航空宇宙やヘルスケア・生命系・電子系に関する様々な製品を作っていると知って興味を持った。</li></ul>

<p><b>○株式会社インターネット</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を専門とする学校だけではなく、一般的な学校で情操教育に役立つことを考えていることに興味を持った。</li> <li>・音声読み上げソフトや音楽制作・編集のソフトを制作していて、キャラクターのコンテンツビジネスも展開していることに興味を持った。</li> </ul>
<p><b>○カシオ計算機株式会社</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「音楽人口の拡大」を目標として、デジタルピアノ、デジタルキーボードの市場を展開している。演奏の上達を目的とした光で鍵盤を誘導してくれるシステムが面白いと思った。また、個人利用としても従来の白黒を基調とした製品ではなく、部屋の模様や趣味に合わせて様々な色の製品を売り出している工夫が素晴らしいと感じた。</li> <li>・皮膚疾患や子宮頸がんの早期発見に役立つ医療用カメラまで扱っている。</li> <li>・企業の社会的責任として、水道水源林の保全を行い、SDGsのパートナーシップに貢献をしていたことに好感を持った。また、荒川の清掃ボランティア活動への参加を通じて、環境課題について考える機会が社員にもたらされていた。</li> <li>・ITC化が進む教育分野で電卓や電子辞書をはじめとした電子機器の事業に力を入れ、総合学習プラットフォームにも力を注いでいるということに興味を持った。</li> </ul>
<p><b>○株式会社河合楽器製作所</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器制作事業に加えて教育事業を行っており、子供の表現や感性を育てる事から、大人の生涯学習まで対応。身近な所で教育活動を行っている点に興味を持った。</li> </ul>
<p><b>○クリプトン・フューチャー・メディア株式会社</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーカロイドのソフトウェアを開発、販売しているのは知っていたが、音声素材、BGMをダウンロード、パッケージの両手段で販売していることに興味を持った。</li> </ul>
<p><b>○クリムゾンテクノロジー株式会社</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIで作曲する「アイメロ」アプリは、好みの楽曲を学習し、メロディーやコードを生成、シンセサイザーによってアレンジを加えることで曲を生成するが、何の楽曲を学習し、その権利はどうなっているのか気になる。</li> <li>・脳波計測によるAI自動作曲技術 Almelo に注目。脳波によるデータから作曲を行う。この技術は睡眠改善への応用に進められる。</li> </ul>
<p><b>○株式会社シンクパワー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲 NGワード自動検出機能に興味を持った。普通は好きなワードを検索にかけて楽曲を探すところを、逆の発想で含まれてほしくないワードを検索にかけてというシステムが斬新。</li> <li>・spotifyで楽曲再生中に歌詞を表示したときに「歌詞提供：プチリリ」といつも書いてあるが気になっていた。</li> <li>・楽曲の方向性判断という、感性に頼る部分の大きい領域をどのように処理するかは、理工学部の生徒として大いに気になる場所である。</li> </ul>
<p><b>○株式会社ズーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチエフェクターのコスパが良く、評判が高いようです。</li> <li>・調べたところ類似する社名企業とは発音が違うことが分かった。これで音楽が好きそうな人と共通の話題ができます。</li> <li>・アマチュアでもプロフェッショナルでも、使いやすい製品の設計・開発・製造を目指す理念に興味を持った。私自身も ZOOM 社のベースエフェクターを愛用しており、これからも ZOOM 社の製品を使用していきたい。</li> </ul>
<p><b>○株式会社第一興商</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時期敬遠されていたカラオケを、マスクで歌っても声がこもらない新機能を設けることで、ハードルを下げようなことを心がけていて素晴らしいと思った。</li> </ul>
<p><b>○株式会社 nana music</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ユーザーの熱量なしに『nana』は成り立ちません。常にコミュニティを第一に考え、あらゆる意思決定を行います」ということが印象に残った。</li> </ul>
<p><b>○バイオニア株式会社</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車載用音響機器について興味を持った。車内に搭載されているスピーカーの数が多いことに驚いた。カーナビにおいても音質にこだわったものがあり、「車室内」の素材による反射や吸収の影響を特に考慮されている点に興味深かった。</li> <li>・ソリューションサービス企業にビジネス変革を行っており、車載機器メーカーとして集めたビッグデータを安全運転等の AI で活用する戦略はまさに時代の流れに乗った企業と感じた。</li> </ul>
<p><b>○株式会社ぶらあぼホールディングス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラシック音楽はコンサートホールで生の音を聞くことが重要だと思っていたが、ライブ配信が活用され、海外での演奏を聴くことができるようになった。</li> </ul>

## ○ヤマハ株式会社

- ・ストリートピアノの演奏に感動した経験から、「LovePiano プロジェクト」に興味を持った。楽器に触れて親しみを持ちたり、音楽から心の豊かさを得たりする良い機会になると感じる。
- ・兄弟がミュージックレッスンでお世話になっていたり、友人がヤマハのブランドを愛用していたり、自身もヤマハの楽器を所持していて、個人的に身近な存在である。
- ・ゴルフクラブ製造やゴルフ場が併設されている旅館の営業をしていることに驚いた。
- ・トレンドを見据えて新たな事業に積極的に挑戦する野心があるという印象を受けた。近年も多くの音楽関連の企業の買収を続けており、新事業にも期待できる。
- ・「クラシックを身近に感じてもらうためのワークショップ」というテーマで東京交響楽団と協力して行っている「おとまち」のプロジェクトは、音楽自体への興味と楽器への興味の両方がある面白と思う。

## 3. 今後のビジネスアイデアレポート

本講義はレポートで成績評価・単位認定を行っています。複数の選択肢から学生自身が好きなテーマを選択できる形にしていますが、今年度もテーマ選択の中に下記のような課題も設定しました。

### 成績評価レポート課題 C

アフターコロナ/ウイズコロナの時代に、音楽産業・デジタルコンテンツ産業・カラオケ産業は**どういった企画や方策やビジネスに力を入れると、以前のような活気を取り戻すことが出来るか。**新型コロナウイルスの特性と音楽産業・デジタルコンテンツ産業・カラオケ産業の特性を踏まえて、**画期的なビジネスモデルや従来にない新しいシステムを考えなさい。**

このテーマは、AMEIに有益なものは評価するという条件で出題をしています。いくつかレポートの提出がありましたので、ご紹介させていただきます。

## ○バーチャルリアリティ（VR）コンサート体験

- ・ライブコンサートをリアルタイムでストリーミング配信し、現実のコンサート会場やステージを忠実に再現し、まるでその場にいるかのような感覚を味わうことができる。
- ・他の仮想の観客とも交流を行えるようにして。アバターやチャット機能を通じて、コンサートの雰囲気やシェアしつつ、仮想空間でのファンと一緒に楽しむことができる。

## ○分散型ライブパフォーマンス

- ・アーティストやパフォーマーが物理的な場所に制約されず、異なる地域や場所からリモートで協力して一緒にパフォーマンスを行う。
- ・そのためにデジタルエフェクトや拡張現実（AR）などを活用する。

## ○AIによる楽曲推薦と生成

- ・AIは訓練データセットから学習した情報を元に、新しい楽曲を生成する。生成モデルには、現在だとリカレントニューラルネットワーク（RNN）、長短期記憶ネットワーク（LSTM）、変分オートエンコーダ（VAE）が使われます。また、AIは異なるアーティストやジャンルのスタイルを理解し、それに基づいて新しい楽曲を生成することで、多様な音楽スタイルやアプローチが生まれる。

## 4. 今後の大学講義について

2008年より続いてきたAMEIと早稲田大学理工学術院との連携講座ですが、学内のコーディネーターを務められた教授が定年退職されたことにより、カリキュラムが見直されることになりました。2024年度以降は開講しないこととなりました。15年にわたる講義の中で、毎年50名を超える大学生にAMEIの活動内容を紹介できたことは、会員にとってもメリットのあることだったと思います。また、音楽の楽しさ、コンテンツビジネスのリアル、著作権の難しさを伝えられたことは、学生一人一人の人生を豊かにすることの一助になったのであれば幸いです。


以上

令和6年能登半島地震により被災された皆様に、  
 謹んでお見舞い申し上げますと共に、  
 1日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

## 会員名簿

50音順 2024年4月1日現在

<b>あ</b>	<b>し</b>	<b>ふ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>AlphaTheta 株式会社</li> <li>アナログ・デバイス株式会社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社シーミュージック</li> <li>学校法人尚美学園</li> <li>株式会社シンクパワー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社フェイス</li> <li>株式会社ぶらあぼホールディングス</li> </ul>
<b>い</b>	<b>す</b>	<b>や</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社インターネット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社ズーム</li> <li>株式会社鈴木楽器製作所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤマハ株式会社</li> <li>株式会社ヤマハミュージックエンタテインメント</li> </ul>
<b>え</b>	<b>そ</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社エクシング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社スリック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホールディングス</li> </ul>
<b>か</b>	<b>た</b>	<b>ろ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>カシオ計算機株式会社</li> <li>株式会社河合楽器製作所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社第一興商</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローランド株式会社</li> </ul>
<b>く</b>	<b>て</b>	<b>* 賛助会員</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>クリプトン・フューチャー・メディア株式会社</li> <li>クリムゾンテクノロジー株式会社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ティアック株式会社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中音公司 (中華人民共和国)</li> <li>株式会社博秀工芸</li> </ul>
<b>こ</b>	<b>な</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社コルグ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社 nana music</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社ミュージックトレード社</li> <li>株式会社リットーミュージック</li> </ul>
	<b>は</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイオニア株式会社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈賛助会員会社 4 社〉</li> </ul>



**令和6年度「MIDI検定」**  
 —ミュージッククリエイターのためのライセンス制度—

<b>MIDI検定試験</b>	4級試験	随時
	1級試験	2024-8/9~8/19
	3級/2級1次試験	2024-12/1(日)
	2級2次試験	2025-2/15~2/17
<b>指導者認定講座</b>	4級指導者認定講座	2024-6/2(日)
	3級指導者認定講座	2024-7/28(日)
	2級指導者認定講座	2024-9/29(日)



System Exclusive ID会員募集中



AMEI NEWS Vol.82 / 2024.4.23  
 一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌  
 発行：一般社団法人音楽電子事業協会 事務局  
 〒101-0061  
 東京都千代田区神田三崎町 2-16-9 イトービル 4F  
 TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人：水野 滋  
 編集人：石黒士郎 (広報委員会)  
 編集協力：株式会社 博秀工芸  
 ホームページアドレス：  
<http://www.amei.or.jp/>

